

PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.12 2020.1.

2020年1月8日 第151回PCC開催



地域の
緩和ケア
紹介

今回は、銀座在宅医院 副院長 井戸田舞先生、ソフィア総合ナースステーション城南 管理者 宮津依久子先生にお越しいただき、施設のご紹介をいただきました。

銀座在宅医院は、中央区にある在宅療養支援診療所です。中央区は、レトロな街並みもあれば、ベイエリアの高層マンションもある、多様性をもった街です。先生が紹介して下さった診療風景のお写真では、利用者さんそれぞれの個別性に合わせた援助をしている様子が伺えました。また、最近の病診連携の特徴として、複数の医療機関との併診が多いこと、緩和ケア病棟への入院と地域への退院をくり返すということが挙げられます。その中で、どこに居てもそこに居られるような多方向を考えた支援が必要だ、ということをお教えいただきました。

ソフィア総合ナースケアステーションは、専門・認定看護師など、専門的知識を持ったスタッフが複数在籍しており、居宅介護支援事業所も併設されている訪問看護ステーションです。在宅看取りで一番多い疾病は がん のことで、グリーンケアや交流の場をつくることを目的に、「いちごの会」という、現利用者から遺族の方まで幅広く集まることができるイベントを開催しておられます。スタッフのみなさんが一生懸命企画してくれている様子や、多く集まった参加者の皆様がうれしそうにしている様子などを紹介してくださいました。

PCU便り



【お琴の会】

みんなで楽しいひと時を過ごしました。

教育講演 「在宅でのせん妄対策」

日本赤十字社医療センターメンタルヘルス科 福田 倫明先生

在宅療養でのせん妄の問題点として、安寧な療養を妨げる、事故などのリスクが高まる、家族の負担になる、などがあります。改善しない場合、在宅療養を続けることが困難となり、入院する原因となることも考えられます。今回、福田先生からは、特にケアの支障となるせん妄の症状と、それに対する介入の基本やケア方法、そして薬物療法についてご講義いただきました。

せん妄とは、身体疾患や薬物が原因となった意識障害の一種であり、精神疾患とは異なります。身体状態が悪い終末期などを除き、がんの終末期などで回復は可能です。原因が解決すれば回復は可能ですが、せん妄が原因となれば回復は不可能です。せん妄とは、身体疾患や薬物が原因となった意識障害の一種であり、精神疾患とは異なります。身体状態が悪い終末期などを除き、がんの終末期などで回復は可能です。原因が解決すれば回復は可能ですが、せん妄が原因となれば回復は不可能です。

悪化した場合や認知症など、原因が不可逆で除去できない因子である場合もあります。その場合は苦痛緩和や環境調整などのケアが重要になります。したがって、せん妄が回復可能かどうか、見通しをつけることも大切とのことです。

薬剤療法は、危険行動を抑制したり睡眠を確保するための対処療法として行われます。今回せん妄の時によく使用される薬剤とその特徴、注意点について専門的知識を詳しく教えていただきました。多くの種類の薬剤の中から、患者さんの状態に合わせ、上手に薬剤を使用することが大切とのことでした。福田先生にはこれからのことも相談させていただきます。



第152回緩和ケアカンファレンス

2020年3月11日 19:00~20:45開催予定

第152回PCC教育講演は「(仮)終末期医療における倫理について考える」講師は、国際医療福祉大学医学部 医学教育統括センター教授 荻野美恵子先生です。終末期の意思決定をどう扱っていけば良いのか、一緒に考えてみませんか。なお、本講演は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

編集後記

2020年、ついにオリンピックイヤーです。今年最初のPCCも、皆様のおかげで盛況のうちに終えることができました。今後も皆様と協力しながら、地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

